

# 農作物技術情報 第8号の要約

平成30年10月25日発行  
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	今年のイネ作りを振り返り、生産コストの低減に向けて総合的に栽培管理や技術内容を見直す。 ※平成30年の作況指数102(篩い目幅1.85mm)、10a当たり予想収量547kg/10a(篩い目幅1.70mm)
畑作物	<b>生育状況</b> ：大豆は、莢先熟の状況が見られる。小麦の出芽、初期生育は良好である。 <b>技術対策</b> 大豆：莢先熟が生じている圃場では子実水分・茎水分の低下を見極め、速やかに収穫を行う。 小麦：土壌処理剤を散布していない圃場は、小麦の生育や雑草の発生状況に応じて土壌処理剤を選択し、必ず散布する。圃場が乾いたら麦踏みを行い、凍上害や倒伏を回避する。
野菜	<b>生育状況</b> ：果菜類の収穫は終盤となり、出荷量は少なくなっている。ほうれんそう、ねぎともに生育は概ね順調に推移しているが、病害虫の発生が見られる。 <b>技術対策</b> <b>跡地整理と施肥管理</b> ：栽培終了後は作物残さを適切に処分し、資材消毒を行うなど病害虫発生源を排除する。土壌改良目標値を満たした圃場では、補給型施肥基準を適用するとともに、養分の過剰が明らかな場合は、減肥基準に基づく適正な施肥管理に努める。 <b>施設野菜</b> ：冬期間にかけて温度確保が必要となる施設野菜では、暖房装置の点検等を含めた省エネルギー対策を実施するとともに、作目の特性や生育ステージに合わせた適正な温度管理を実施する。 <b>寒締めほうれんそう</b> ：ハウスを開閉して生育を調節し、葉柄のbrix糖度8%以上を確認して出荷する。 <b>促成アスパラガス</b> ：低温遭遇時間を考慮して適期に掘り取り、収量を確保する。
花き	<b>生育状況</b> ：りんどう、小ぎくとも間もなく出荷終了。 <b>技術対策</b> りんどう：残茎処理などの秋じまい管理を遅れないよう行う。 小ぎく：計画的な伏せ込み作業により、健全な親株を確保する。
果樹	<b>生育状況</b> ：りんご「ふじ」の果実生育(横径)は、平年並からやや大きめ。果実品質は、平年と比較して、糖度は高く、硬度・デンプン指数は低く、蜜入り指数は平年並。 <b>技術対策</b> りんご：「ふじ」の熟期は、暦日で見ると平年より進んでおり、特に硬度の低下が早いので、収穫遅れにならないよう適期収穫に努める。
畜産	<b>子牛管理</b> ：秋～冬の寒さは子牛の発育に大きく影響する。保温を意識し過ぎると、換気がおろそかになり、呼吸器病を蔓延させるため、日頃の管理を見直し、ポイントを押さえた寒さ対策を実施する。

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

○農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○9月15日～11月15日 秋の農作業安全月間「農作業 ころのゆとりで 事故防止」

次号は平成30年11月29日(木)発行の予定です